

井戸端だより

第8号

発行日 1994.12.22

発行 暮らしの学習会

私たちの生活に水がもどってきました。今年の夏の貴重な体験は、私達一人ひとりの暮らしの中で どのような形で 活かされているでしょうか。

『龍沢泉のゴミ拾い・自然観察会』 1994.11.11.

★ 11月11日 管理者である南野田水利組合長さんのお許しを得て 龍沢泉のゴミ拾いに出掛けました。ゴミを拾うにはやぶの中に入ります。やぶの中には、快適な季節であるいろいろな生物(特にたがあいの)が快適に暮らしていて 侵入者に耐えてトラブルをひきおこします。三題断のようですが、厚着に寒い季節の方がゴミ拾いには適しているわけです。当日は案外相違なく汗ばむほどの暖かい日でしたが、標準装備は軍手、火ばさみ、ゴム長、首にタオル。作業のあとは自然観察会と熱々のブタ汁がっくというおれこめの20名余が参加しました。

緑化センターの西、青空に白い雲、遠く四ツ峰上林が眺められ、重信川のほとりに雑木林にかこまれた(ほんまの)ようないいところです。10時から始めて、缶詰、空きビン、缶蓋、ビニール袋、雑誌、煙草の吸殻、点々と「ゴミ・ゴミ・ゴミ……」ゴミをあつめ「ブタ汁を作りはじめよう」とお声がかった時は、正直なところ、ほっとしました。それはそれほたくさんのゴミでした。どうやらゴミを捨てる目的で来ている気配

を感じてしまいました。日常的管理の限界を越えていきます。夜金ゴロの
有り様態にしてみても、糖質等の摂取は減らすし、おもしろものや味の
コーヒーの空気の山を見れば、ひとひさのやまのさの湯や（おもしろい）
などが。

母に甘える馬の尻子はもうやめまじう。

やととりかかったブタ汁は、じゃがいも、玉ねぎ、こんにゃく、ごぼう
にりん、豆腐、椎茸、昆布、そして豚肉。味噌仕立てで、税に
青ねぎをちらします。名古屋出身のメンバーが作り手が違えば、気付
いて下されたとか。名古屋のブタ汁も食べしてみたいな。

結婚して初めての歳の暮、義父に「文化は女系を引くものだ
から正月料理も、いいと思うようにしてよろしい」と言われたことを
思い出しました。自分が当たり前と置いてしていることは、生まれ育った価
値観の中の「当たり前」であることを時々、ちよと思い出してみても
刺激的。「くらしの学習会」のテーマである水からはじめ
とほなれてしましますが、これが国際化やら何やらのはじめの
一歩ではなないでしょうか。そして最終目的のもしもせぬ。
ちなみにこの一年北を眺めてきて、今、道端の小エビの流れを
見ても「ああ、水は文化、人の営み」と思うようになりました。
来年も人と人の関わりにおいて水を考えていきたいと思います。（ふり）

★★ 重信川か、いいなあ... 高校生の頃、文芸部の友達と放
課後、電車で揺られて行った。見奈良は、くぬぎ林に落ち葉の
音だけが響いていた。それからしばらくして、フジはチヂ
リストの彼と、重信川の伏流水を覗きに行つた。小道と

降りていくと 灌木に覆われた秘密の泉…… まるで自分たちのような、

じやじやーん 夢醒めで 今やおばさんの声。

ゴミ拾いに誘われて 湖水中の松山から 出掛けに行くと

まあ、何ぞと！ 瀧沢泉の上は 公園の近くでゴミの斜面だ。缶、びん、お弁当から 各種ゴミから 家具、バドミントンまで 拾っても 終わらない。厚いになっているので、運ぶのを途中で断念するほど 集めたが、それでもほんの一部だ。

この泉は この夏 プルオーバーを入れて 取水のためにコンクリート 井戸が作られて 索瀑とされていたが 端の方は テルギの芽が 出ており セグロセキレイが 遊ぶ セセらぎが 残っているほど した。

くらの合の方たちの 心づくしのお話を いただいてから、三ヶ村 泉を訪ねた。

あくまで澄んだ 水に揺れる水草、魚、貝、ほら、チウヤトにボシ、これこそ遠き日の泉との再会だった。水辺で遊ぶ 子供たちの姿を見るのは 何年振りのことだろう。ためらっていた 大人たちも つぎつぎと 水に入る。足の裏をくすぐる 湧水…… 時間が止まったようだ。

この夏、我家は 併走していた 高性能の合併浄化槽を 設置し、美しい水辺をとり戻し 水のリサイクルもあることに 一歩 踏み出した。表流水1に対し 地下水は9あり、薬品で浄化する 表流水よりも 少々汚れているが 地下水の方がはるかに 良く、今と 反対に 地下水を生活用水に、表流水を工業用、農業用にするべきことも 知った。

その大切な 地下水を 育む上流の人達と、それを いたた

下流の人達が最初一滴から川を思ひ、天の川、水に付く時、何時も
あり方に目を向け続けなければいけない、それが水と生き物とを運
んだと感じた。

情りに射せていたいた相原さん宅の（おん）の木の音の音が
快い癒えをいやしてくれた。

直信くらしの会の皆さん ありがとう (松山 T.K.)

*** 最初 私はそんなにゴミは無いと思っていたのに とこもあつた
のでびっくりしました。そうじをはじめると、とりつくせないほどあり
ました。とくに イス、バットが捨てられてあつたのでびっくりしたです。
それに、とこもあつた。ぐん手をしていたのでよけいあつたです。
とくに多かったゴミは 空カン 空ビン お弁当のゴミ おまのゴミです。
でも後の方になると どんどんきれいになるのがうれしくなってきました。
1人もいたけど、さこれなかったからよかったです。そのあとにゴミをす
て行くときに、まだ15個以上ゴミが道の横に捨てられていたから
もうなん回も来ないと ダメだと思いました。そしてとこもがかりました。
あんなにがんばつたのに... と思いました。私もこれから こうい
ういろいろなことに気を付けたいと思います。

泉は 魚が いっぱいいて おじさんに 魚みをかしてもらいました。
でも早くつかまりませんでした。あんなにきれいな泉は、はじめ
で見ました。 そこには ゴミは落ちていませんでした。
↳ どうしてかな? (I.Kちゃん)

泉の絵はがきに反響

愛媛新聞（11/5）と朝日新聞（11/18）に泉の絵はがきのことが紹介されました。

その朝以来、一日に数件電話が入り、合計23人の方から60部の絵はがきの注文をいただきました。なかには、「記事を見て、昔の泉を思い出した」と泉にまつわる思い出を熱っぽく語られる方や「三か村泉の石組みは素晴らしい技術で、今の技術は足元にも及ばない。道後平野で残るとしたら、最後の水だろう。絶対に守らなければ」と教えてくださる元県職員の方もいて、たいへん励まされました。電話をくださった方々は、地元重信町の5件をはじめとして宇和島から伊予三島にいたるまで広範囲にわたっていて、「素晴らしいことです」、「応援しています」、「ぜひ泉を守ってください」と口々に賛同の意を伝えてくれました。

以下は代金振込み用紙に書かれていたメッセージです。

- ☆水の透明さに感動いたしました。いつまでもこの美しさが続いていくように祈っています。
- ☆私の知っていた泉とは違っているようですが、生まれ故郷にまだこのようなきれいな水が湧き出ていることを知り、とてもうれしく思いました。私は樋口生まれで、重信川の泉の水を飲み、洗濯をして、泳いで育ちました。重信川の土手には、野兔がいました。野ぶどうが熟れ、きのこが生えていました。今の故郷のあまりの変貌ぶりが悲しく、墓参りに帰るだけでした。次には涙をつれて泉に行きます。守ってください。子孫のために。
- ☆重信川ぞいの泉には以前から興味を持っていました。地図を片手に自転車で泉めぐり(?)をしたこともあります。重信川ぞいの泉について何か資料をご存じでしたら、ぜひお教えてください。
- ☆一つ一つの小さな声の和を拡げる努力にエールを送ります。それが小さな石一つの投げ掛けであっても水面に輪が拡がるごとく伝播してゆく事でしょう。





のら
信婦
重主

泉保存へ絵はがき

収益を「基金」に活用

温泉郡重信町田窪の三ヶ村(さんかそん)泉の「婦のグループ」重信くら

重信くらしの学習会がつくった三ヶ村泉の絵はがき

しの学習会(丸井美恵子代表)が泉の絵はがきを作った。販売収益を「基金」として環境保全に活用する考えで、丸井代表は「農家と交流しながら一緒に保存を考えていきたい」と話している。

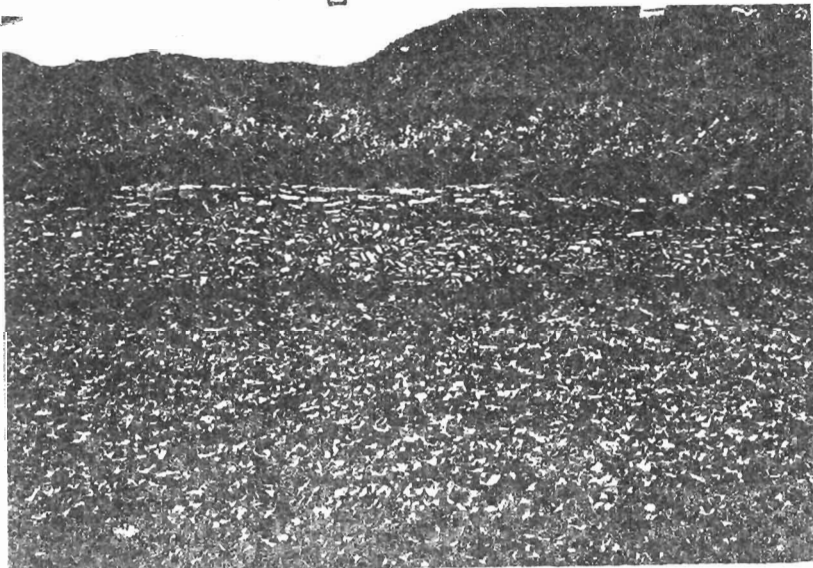
三ヶ村泉は同町牛浜、北野田、南野田の三地区の農業用水の主水源の一つ。清流の昆虫や魚が生息し、多様な生態系が守られている。

三年前から泉を撮り続けている松山市内の写真家白形毅史(さんご)に写真を依頼した。絵はがきは、六枚一セット(三百五十円)で、千部つくった。

鮮やかな緑の中にハグロトンボやヤゴ、カワムツを写し出している。同会は環境関連の催しなどで売っていく。

申し込みは、丸井代表 電話0899(64)0828。

『畑の石もなまき石積み』



三ヶ村 井野浦

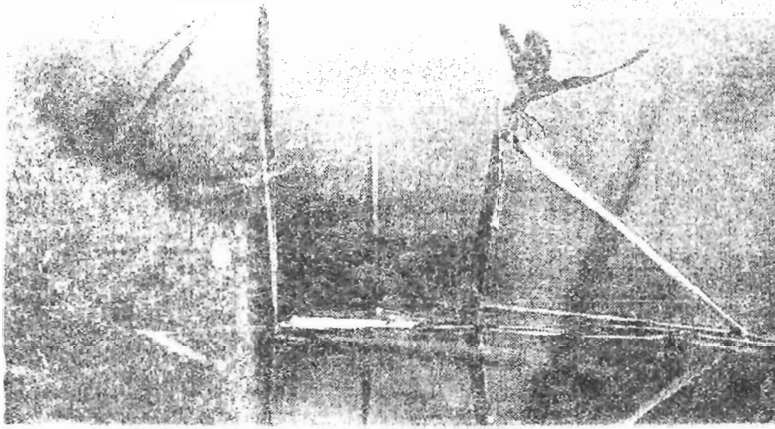
重信の三ヶ村

水田地帯に残る豊かな自然

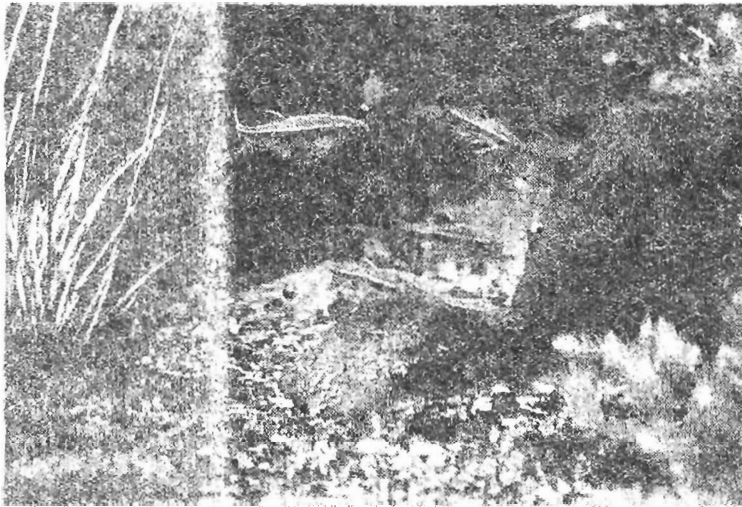
群れ集う虫や魚たち

町内の主婦ら 絵はがきを作る

透き通った水の中を群れ一帯が水面を舞う。底をサワサワと歩くカワムツ、ハクロトンガニが歩き、夏にはホタルが舞う。温泉部重信町の三ヶ村泉には、様々な動植物が住みついている。約二百年前に田畑を開すために削られた泉は、長い歲月の間、最初に人の手が加わらなかつたと思えない自然な姿に変わった。数多い重信川周辺の泉のなかでも、豊かな自然の庭園に虫や魚たちが集うさまは、まさに別世界だ。



温泉部重信町の三ヶ村泉



澄んだ水の中を泳ぎまわるカワムツも温泉部重信町の三ヶ村泉で、白形設定さん撮影

な自然が残る泉として、市民に親しまれている。江戸時代の一七八一年から十年かけて完成した三ヶ村泉は、重信川北側の水田地帯にある。泉は隅の隅約十貫目、あつそうとし左側水に閉まれている。案内板があるわけでもなく、外からはたゞの林にしか見えない。松山市の中心部から車で二十分ほどだが、緑豊かな自然の庭園に虫や魚たちが集うさまは、まさに別世界だ。

そんな泉の美しさを伝え、守ろうと町内の主婦らでつくる「重信くらしの学習会」（丸井恵美子代表）が九日、絵はがき作りを行った。一年前から「自分たちの飲んでいる水はどこからきているのだろう」と、「水」をテーマに学習を続ける中で、町内の泉の美しさを再発見した。

十二日には、三ヶ村泉開きなどのごみ拾いの後、泉の観察会をした。約二十人が集まり、子どもたちは泉に落ちた裸足になって水に入った。

観察会には、絵はがきの写真を撮った松山市の白形毅史さん(三三)も参加し、「この水庫みたいのがテイレキ、石にはりついている魚はヨシノボリ」とガイド

絵はがき制作の様子を背景に役立て、その美しさを知ってもらおうと制作した。六枚組み、三枚五十五枚、高台合わせは丸井さん(〇八九九 六四一)の八二

早速お送り
原稿有難うござい
ました。素晴らしい
絵葉書です。伝えおこ
する側り心か入りに乗って
います。ここのか本気の情報
だと思えます。人としての情を報
情々に報いふこと。情報と文は経済
ベースでいかやりとりされる。今の在り方は
絶対間違ってますと、感じました。一人一人
今後、健康な心から祈っています。
お返しは、人から温かくする泉のあたたか
い温泉部をのぞいて下さる。
温泉部重信町 泉内 1665-9 国津道 可
白形毅史 代表

丸井恵美子代表
観察会には、絵はがきの写真を撮った松山市の白形毅史さん(三三)も参加し、「この水庫みたいのがテイレキ、石にはりついている魚はヨシノボリ」とガイド

丸井恵美子代表

温泉部重信町 泉内 1665-9 国津道 可
白形毅史 代表

「名水の里・重信パネル展」の為のアンケートに寄せられた御意見

★ 特に雨の多いはじめ、水道水がにがり、風呂に入ると床が見えない。山之内の碎石場から上流はどんなに雨がふってもにごらないのに、碎石場から下流は茶色になっている。碎石場（E 碎石）の人にたおぬと山手側（I 碎石？）がわざと流しているみたいとのこと。（沈澱せず）沈澱するときには大量の薬を使っているらしく、人体・塩素も含め心配している。上林 下林に人がかりなほ場整備がおこなわれており排水や自然が悪くなっている。元の田の土にもどすのに 10 年かかるらしく水田から出る水はにがり又三方コンクリート排水にあるため浄化ほされず、生物もいなくなる。ほ場整備のことで役場と話しあっているが、このようなことを言うぼくたちはじゃま者とか見えないみたい。（ほ場整備を やりとげるのに やきとなっている）（Y. H）

今後の予定

- ・ 総会のお知らせ： 1995年1月23日（月） p.m. 1:00～
町民会館 婦人室で 1994年の報告と、1995の計画について話しあいます
- ・ その他 随時話題になったり、気になったことを勉強したり、調べたりします。

会員募集中！！

- ・ ぐらしの学習会では一諸に活動する仲間を募集しています。会費は年2000円。購読のみ希望の方は1000円です。いつでも入会できます。

お問い合わせ：“ぐらしの学習会” 重信町西岡 599-68 丸井方
64-0828, あまいは 64-6956 (木)

編集後記

- ・ 今年もほんとうにあとわずか。あめただしいこの時期に手書きの読みづらい会報をお届けすることになってしまいました。どうぞ佳い年を（K）